

Newsletter

No.6 (2000.12.31 発行)

ご挨拶

JAICOWS 会長 島田淳子

皆様、こんにちは。今回 JAICOWS の会長を務めることになりました。皆様にはぜひ本会の趣旨を御理解いただき、御協力をお願いいたしたく、JAICOWS について少し紹介させていただきます。

1994 年 5 月、第 15 期日本学術会議は、我が国の女性科学研究者の地位、環境が著しく低く、その改善は緊急であるとの声明を世に出しました。そのときの女性会員は、会員 210 名中、4 名でした。しかし、皮肉なことに、その 2 ヶ月後に発足した第 16 期学術会議の女性会員は、1 名に減ってしまいました。このような状況下で、女性の会員経験者、女性研連委員が協力して、女性科学研究者の環境改善に向けて努力しようとして発足したのが JAICOWS です。

以来 6 年間、緊急テーマを取り上げてのシンポジウムの開催、関係機関や団体への要望書の提出等の活動を行ってまいりました。学術会議の女性会員は第 17 期には 2 名に、そして 2000 年 7 月に発足した第 18 期には、本ニュースレターに記されているように 7 名に増加しました。しかし、我が国の学界における男女共同参画の歩みは、理想とはかなり遠い所にあります。

21 世紀の日本の学術の推進には女性科学者の環境改善は必須と言われております。新しく会員や研連委員になられた皆様には、ぜひ JAICOWS の会員として、我が国の学術の進展に貢献して頂きたいと思っております。御入会をお待ちしております。

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS) 第 8 回総会議事録

(以上、島田淳子会員)

日時：2000 年 4 月 15 日(土) 14:00~16:40
場所：お茶の水女子大学理学部 3 号館会議室
出席者：安川悦子、原ひろ子、島田淳子、鳥居淳子、伊藤セツ、大隅正子、直井道子、中間美沙子、宮本美沙子、鈴木益子、加藤万里子、木野内清子、岩見照代、馬場房子、浅倉むつ子、直井道子、室伏きみ子
議長：安川悦子

報告事項

1. 会長挨拶 安川悦子会長より挨拶があった。
2. 1999 年度活動報告
 - (1) 日本学術会議、学術審議会等への女性科学研究者問題に対する取り組みについての要望書提出。(ニュースレター 5 号参照)
 - (2) 第 17 期日本学術会議会員からの報告

○勧告と声明が合計 4 つ出されたが、そのなかの「日本学術会議の自己改革について(声明)では女性科学者の環境改善に関する項目が取り上げられた。

○「学術の動向」に、最低 1 人は女性の名前が出るような編集努力をしてきき、さらに CONGRATURATION という欄を設け、女性だけに与えられる賞と受賞者を紹介した。(ニュースレター 5 号参照)

○学術審議会への要望書には、ヒアリングをしたいとの反応があり、原会員が出席。

○国大協では要望書を受けて、ワーキンググループを作って活動中。

○女性特委から学協会およそ 1400 に対して、日本学術会議会員選挙などにあたって女性研究者に関する取り組みをどの程度行ってきたかというアンケートが 3 月 15 日付でなされた。3 月 30 日の締め切りで約 770 の回答が集まって、現在集計中。

○女性特委を 18 期も続けて欲しいとの申し送りをした。(以上、原ひろ子会員)

(3) 第 4 回シンポジウム(12 月 18 日)の報告 (直井道子) ニュースレター 5 号参照

(4) ニュースレター 5 号の発行 (鳥居淳子)

3. 1999 年度会計報告 (大隅正子)

別紙資料 2 に基づいて報告があり、承認された。

* なお、JAICOWS の調査研究プロジェクトの参加者と調査費用(科学研究費など)の記録を添付することとした。

4. 日下部稀代子参議院議員の、日本学術会議に関する参議院文教・科学委員会における質疑について、別紙資料に基づいて報告された。(室伏きみ子)

審議事項

5. 2000年度活動計画(案)

(1) 女性科学研究者の環境改善のための活動

○日本学術会議あて女性特委の継続についての要望書を提出する。

○女性特委の実施した調査結果の、新聞等への早期公表を求める要望書を提出する。

○今後、時期をみて、女性研連委員が女性特委のオブザーバーになれる様な要望書を提出する。

(2) 第18期日本学術会議会員ならびに研究連絡委員の選出に伴い、JAICOWS入会への呼びかけを行う。

(3) 第5回シンポジウム「学術における男女共同参画と日本学術会議」の開催 12月第1週または第2週の金曜日に、学術会議会長、女性特委委員長などを招いてシンポジウムを開催する。

(4) ニュースレターの発行

6. 2000年度予算(案) (大隅正子 会計担当)

別紙資料に基づいて提案され、承認された。

7. JAICOWSの事務局体制の変更

○原ひろ子(元)お茶大教授の定年退官に伴い、事務局を昭和女子大・伊藤セツ教授のもとへ移動する。

○それに伴って伊藤セツ教授をJAICOWS幹事とする。

○任期途中であるが学術会議改選後残任期間の会長を原ひろ子放送大学教授とする。

○名簿管理と会計事務をワールドプランニングに委託する。

○副会長留任(鳥居、島田)、ニュースレター担当(鳥居、大野)、企画担当(浅倉、直井)とする。

8. その他

○学会、研連の状況の報告と議論：特に天文学研連、社会政策学会などの状況について。

○女性科学研究者会議についての報告(鈴木)

以上

JAICOWS 臨時総会記録

日時：2000年10月14日(土) 13:30~16:30

場所：昭和女子大学大学一号館二階大会議室

出席者：原ひろ子、丹羽雅子、島田淳子、加藤万里子、小林和子、長野ひろ子、伊藤セツ(事務局幹事)

委任状：会員数140名中、委任状86名(うちE-mailでの委任3名)

議長：加藤万里子

記録：伊藤セツ

最初に、JAICOWS第8回総会(2000年4月15日)議事録の確認訂正を行なった。出席者加藤真理子を万里子に訂正し、承認された。

1. 報告事項

(1) 第17期「女性特委」の活動について：原会員より日本学術会議第132回総会の第17期を締めくくる成果にもとづき、配布資料をもとに「要望」「声明」の報告と説明がなされた。『学術の動向』2000年6月号、7月号を参照のこと。

(2) 第18期の開始について：原会員より『学術の動向』2000年9月号の掲載事項をみることとの指示があった。

(3) 文部省科学研究費補助金時限付き分科細目「ジェンダー」設定記念特別シンポジウムについて：原会員より事務局に指示があり、役員E-mail会議で全員の賛同を得て、JAICOWSが同シンポジウムの協賛団体となったこと、シンポジウムは2000年9月11日(月)18:00~20:30、日本学術会議講堂で開催され、120名

の参加者があって盛会であったこと。多くの申請がこの細目に出されることを期待するとの報告・要望が、事務局幹事、原会員からなされた。

(4) 4月15日総会以降の事務体制：6月1日、ワールドプランニングと、名簿管理と会費管理を契約した。封筒を作り、会費納入の依頼状を出し、入金率は68%であったこと、臨時総会の招集は、版下は事務局が作成してE-mail送信でワールドプランニングが印刷・郵送したことが報告された。

2. 審議事項

(1) 会長交代の件：会長は原ひろ子氏が第18期会員になったため、島田淳子副会長が、新たに会長に選出された。原ひろ子氏は副会長になった。

(2) JAICOWS第18期の活動：とりあえず、「声明」をうけた「要望」を出すこととなった。文案は別紙の通りである。

(3) 新入会員の募集：新入会員を会則第4条に基づき、第18期女性会員・研連委員等を中心に募集する。

(4) ニュースレター及び広報活動：4月18日総会以降の「要望」および、第17期日本学術会議の「要望」「声明」を掲載した短いニュースレターを発行する。今回は事務局幹事が中心に編集し、ワールドプランニングが作成する。また、広報担当委員として加藤万里子氏を選び、当面は加藤氏のホームページを借りて、JAICOWSの広報活動を行なうこととなった。

(5) 第5回シンポ「学術における男女共同参画と日本学術会議」の開催の具体化：4月15日総会で決定し

た上記懸案については実施を延期することとした。
(6)その他：名簿を、次期総会までに発行する。研究調査活動を行なう。

・次期総会は2001年3月30日(金)13:00~14:00、
日本学術会議2F大講堂にて行なう。(詳細別紙)

要 望 書

平成12年4月15日

日本学術会議会長 吉川弘之殿
女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
(JAICOWS) 代表 安川悦子
(日本学術会議第13,14,15期会員、
経済理論研究連絡委員会委員)
JAICOWS第8回総会参加者一同

日本学術会議第18期における「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」設置について

日本学術会議におかれましては、かねてより学術研究の体制改善のためにご努力下さっていることに感謝申し上げます。

特に、「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」を設置され、男女共同参画社会における日本の学術のあり方の検討と、女性研究者の環境改善については、積極的なご努力を重ねていらっしゃることは、深い敬意を表明いたします。つきましては、下記の件を要望いたします。

記

1. 第18期学術会議においても、「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」におけるご検討を継続して頂くこと。

2. 上記委員会に、学術会議会員以外のオブザーバー参加をお認め頂きたいこと。

以上

要 望 書

平成12年4月15日

日本学術会議会長 吉川弘之殿
日本学術会議女性科学者の環境改善の推進特別委員会 委員長 尾本恵市 殿

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
(JAICOWS) 代表 安川悦子
(日本学術会議第13,14,15期会員、
経済理論研究連絡委員会委員)
JAICOWS第8回総会参加者一同

日本学術会議第18期会員推薦に当たって「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」が実施した調査結果の早期公表について

日本学術会議におかれましては、かねてより学術研究の体制改善のためにご努力下さっていることに感謝申し上げます。

特に第18期会員推薦に当たって女性候補の推薦の奨励に関する吉川弘之会長の文書(平成11年9月14日付け)の持つ意味は画期的であったと思

ます。かつ、「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」尾本恵市委員長名での調査(平成12年3月15日付け)が、日本学術会議登録学術研究団体に送付されましたことについては、吉川会長文書のフォローアップの意味をもつものとして誠に時宜を得たものであると励まされる思いでおります。つきましては、下記の件を要望いたします。

記

1. 「女性特委」が実施した調査の集計終了時期の見通しについてお伺いしたい。

2. 集計結果を直ちに回答のあった各学会に送付すると同時にマスコミに広く公表していただきたい。

上記について第18期日本学術選挙の開始以前に下記事務局に御回答いただきたい。

以上

要 望 書

平成12年10月14日

第18期日本学術会議 会長 吉川弘之殿
女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
(JAICOWS) 会長 島田 淳子
JAICOWS第9回(臨時)総会参加者一同

第17期日本学術会議におかれましては、我が国の学術研究の体制改善のために数々の活動をなされ、成果を挙げられたことに敬意を表します。

特に、「女性科学者の環境改善の具体的措置について」(要望)および、「日本学術会議における男女共同参画の推進について」(声明)を出されたことに一同感謝申し上げます。本声明において「日本学術会議の女性会員比率を10年間で10%まで高める」ことを明示なさいましたことは、日本学術会議がこの問題に対して並々ならぬ決意を持って臨んでおられることのおかげとして、全国女性科学者に大きな力と支えを与えました。改めて感謝申し上げます。しかしながら、これら要望および声明に現実に向けて、かなりの努力が必要であることが考えられます。よって下記を要望いたします。

記

1. ジェンダー問題が、21世紀における全地球の課題であるとの認識に立ち、世界並びに日本における学術研究を深め、その成果を広く一般に周知されたい。

2. 特に我が国の学術そのものに内在するジェンダーバイアス、女性研究者差別等の実態を構造的に掘り下げ、解決への道をひらいていただきたい。

3. 第17期声明における「10年間で女性会員比率を10%まで高める」ための具体策に早急に着手していただきたい。

以上を現実させるために、例えば特別委員会を設置するなど、一層の努力をしてくださいますようお願いいたします。

付記：学術研究団体登録手続きの様式に男女別を明記するという点に関して、早めに推薦管理局に働きかけ、各学会への周知徹底をはかること、第18期選挙に当たって会員推薦に関する学協会等への会長要請文書等に対する対応調査の結果を速やかに公表すること、第18期研究連絡委員会の女性委員比率を早めに公表していただくこともあわせて要望いたします。以上

要 望 書

平成12年12月11日

科学技術庁長官 町村 信孝 様

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
(JAICOWS) 会長 島田 淳子
(第16期・第17期日本学術会議会員)

科学技術庁におかれましては、かねてより日本の科学技術の前進のためにご努力下さっていることに敬意を表します。わたくしども「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」(略称 JAICOWS)は、1994年、日本の女性科学研究者の環境改善に関する諸問題を日本学術会議を中心に取り組むため発足した会であり、会員は、新旧の日本学術会議会員、研究連絡会委員、特別委員からなり、ほとんど全ての学問分野にまたがる女性科学研究者を組織しております。発足以来、学術分野における男女共同参画にむけて、シンポジウム、女性科学研究者の実態に関する調査、日本学術会議に対する要望書の提出等の活動を行なってきました。

さて、このたび科学技術庁よりだされました「科学技術基本計画(案)」に関しまして、科学技術領域への男女共同参画の精神に照らして、下記の点を組み入れていただきたく、以下意見・要望を出

させていただきます。

科学技術基本計画案第2章II 1. (1) ⑥ (b) 女性研究者の環境改善に関する意見

記

1. 女性研究者の取扱いが若手研究者より小さい。若手研究者については「③若手研究者の自立性の向上」として大きく取り上げられている。一方、女性研究者は⑥の小見出しとして扱われ、目次にも出ていない。男女共同参画社会基本法が施行され、男女共同参画社会の形成が我が国の最重要課題と位置付けられている今日、女性研究者の扱いが不釣り合いである。せめて若手研究者の取扱いと同列に位置づけられたい。

2. 女性研究者の環境問題が、「特に」としている例示において、出産後の問題に限定されているとの誤解を与える狭い内容になっている。女性研究者が当面している問題は、個々の女性研究者の出産の有無に係わらず、社会通念その他の抜本的変革を要する問題として捉えられるよう視野の広い叙述にしていきたい。

3. 基本計画における女性研究者の扱いが小さく、かつ出産後の問題が強調されているために、計画の内容に不備があるので、以下の事項を付け加えられたい。

(1) 女性研究者の採用、昇進等について定期的に調査・公表し、その動向変化について分析を行い、改善が必要とされた課題への取り組みを示した計画を策定することを検討すること。

(2) 人事選考の仕組みを改善し、研究者の採用に当たっては、当該分野における大学院学生数・学位取得者数の男女比率の推移なども考慮して、女性研究者が適切に選任されるよう配慮すること。特に女性研究者の比率の低い分野にあっては、特別な配慮が必要である。また、女性研究者の教授や管理職への昇任を積極的に推進すること。そのために、人事選考委員会に女性会員を加える等の工夫をすること。

(3) 公私の別なく、研究者が自ら希望する名称(旧姓、通称名など)を使用できるようにすること。

以上

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS) 事務局

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7

昭和女子大学女性文化研究所内 担当幹事 伊藤 セツ

Tel 03-3411-5096 Fax 03-3411-5347 E-mail jo-2100@swu.ac.jp

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/jaicows/>

事務センター：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル 株式会社ワールドプランニング内

Tel 03-3431-3715 Fax 03-34311-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

島田会長のご挨拶にありました第18期の7名の女性会員を、『学術の動向』第5巻第9号(No.45)に掲載されたものから転載させていただきます。転載に当たっては、『学術の動向』編集委員長および発行元の日本学術協力財団代表の許可を得ました。

日本学術会議第18期 女性会員

日本学術会議の女性会員等の増加については、男女共同参画社会に向けて積極的な改善措置をとることが「日本学術会議の自己改革について(声明)」でも謳われていましたが、第18期においては、7名の女性会員が誕生しました。ここに、各氏のプロフィールを紹介します。

第1部



井上 和子

(いのうえ かずこ)

専門：語学・文学

関連研究連絡委員会：

語学・文学

勤務先・職名・称号等

神田外語大学大学院言語科学研究科教授

(Ph.D in Linguistics)

最終学歴

昭和39年12月 アメリカ合衆国ミシガン州ミシガン大学大学院博士課程修了

学位：言語学博士

職歴

国際基督教大学教養学部講師・助教授・準教授・教授

(昭和38～60年)

津田塾大学学芸学部教授(昭和60～63年)

神田外語大学外国語学部教授(昭和63年～平成元年)、学長(平成元～9年)、大学院言語科学研究科教授(平成9年～現在)

研究歴

日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究

言語理論と日本語教育の相互活性化

先端的言語理論の構築とその多角的な実証

所属学術研究団体・役員歴

○日本英語学会(昭和63年～平成2年 副会長/現在 顧問)

○大学英語教育学会

○日本言語学会(昭和58～60年 会長)

○言語学者常置国際委員会(昭和62年～平成9年 副会長)



柏木 恵子

(かしわぎ けいこ)

専門：心理学

関連研究連絡委員会：
心理学

勤務先・職名・称号等

白百合女子大学文学部教授（東京女子大学名誉教授）

最終学歴

昭和35年3月 東京大学大学院教育学研究科博士課程教育心理学専攻中退

学位：教育学博士

職歴

東京女子大学文理学部講師・助教授・教授（昭和36年～平成2年）

白百合女子大学文学部教授（平成2年～現在）

研究歴

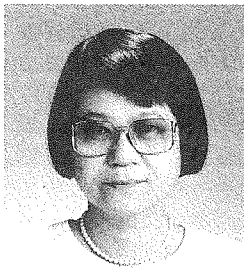
発達心理学。特に、日米の認知発達に関する視角文化的研究。青年期の性役割獲得に関する研究。最近は、社会変動と家族・個人の発達に関する理論的実証的研究を行っている。

所属学術研究団体・役員歴

- 日本発達心理学会（平成11年～現在 理事長）
- 日本性格心理学会（平成4年～現在 常任理事）
- 日本心理学会（平成2～4年 理事）
- 日本家族心理学会（平成5年～現在 常任理事）
- 国際行動発達学会（平成2～8年 常任理事）

審議会等委員歴

- 社会教育審議会委員（昭和57年～平成2年）
- 矯正保護審議会委員（昭和58年～平成5年）
- 大学設置審議会委員（平成3～11年）



原 ひろ子

(はら ひろこ)

専門：地域研究

関連研究連絡委員会：
文化人類学・民俗学

勤務先・職名・称号等

放送大学教授

最終学歴

昭和39年6月 米国プリンマー大学大学院博士課程人類学科修了

学位：ドクター・オブ・フィロソフィー（PhD.）

職歴

拓殖大学講師・商学部助教授（昭和39～45年）

法政大学第一教養部助教授（昭和53～54年）

お茶の水女子大学家政学部助教授・教授・女性文化研究センター教授・ジェンダー研究センター教授（昭和54年～平成12年）、センター長（平成10～12年）、お茶の水女子大学名誉教授（平成12～現在）

放送大学教授（平成12年～現在）

研究歴

カナダ極北ヘヤー・インディアンの主観的世界に関する調査研究

アジア及び太平洋地域における女性政策と女性の社会参画に関する調査研究

科学研究者の環境に関する調査研究—男女比較を中心に

所属学術研究団体・役員歴

- 日本民族学会（平成2～4年 会長）
- 日本人類学会
- 日本民俗学会
- 国際女性学会（昭和62年～平成元年 代表幹事）

日本学術会議会員・委員歴

第17期会員

女性科学者の環境改善の推進特別委員会幹事（第17期）

文化人類学・民俗学研究連絡委員会委員（第15～17期）、委員長（第17期）

人類学・民族学研究連絡委員会委員（第15期、17期）

太平洋学術研究連絡委員会委員（第17期）

アジア学術会議実行委員会委員（第17期）

審議会等委員歴

男女共同参画審議会委員、中央環境審議会委員、生涯学習審議会委員ほか



岩井 宣子

(いわい よしこ)

専門：刑事法学
関連研究連絡委員会：
刑事法学

勤務先・職名・称号等

専修大学法学部教授

最終学歴

昭和39年3月 東京大学法学部第一類卒業

職歴

東京大学法学部助手（昭和39～42年）

法務総合研究所研究官補（昭和42～47年）

東京弁護士会弁護士登録（昭和47～57年）

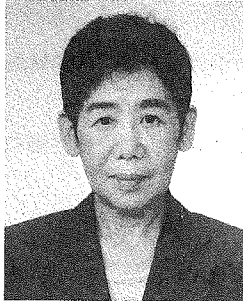
神奈川大学短期大学部助教授（昭和52～57年）
金沢大学法学部助教授・教授（昭和57年～平成6年）
専修大学法学部教授（平成6年～現在）

研究歴

犯罪性精神病質者の実態と処遇に関する研究
女性犯罪の実態と処遇に関する研究
児童虐待の実態と対策に関する研究

所属学術研究団体・役員歴

- 日本犯罪学会（平成6年～現在 常任理事）
- 日本刑法学会
- 日本犯罪心理学会
- 日本犯罪学会
- 日本被害者学会（平成10年～現在 理事）
- 日本医事法学会
- 法と精神医療学会（平成12年～現在 理事）



毛里 和子

(もうり かずこ)

専門：政治学
関連研究連絡委員会：
政治学

勤務先・職名・称号等

早稲田大学政治経済学部教授

最終学歴

昭和40年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了

学位：文学修士

職歴

(財)日本国際問題研究所研究員（昭和40～62年）

上海日本国総領事館・専門調査員（昭和56～58年）
静岡県立大学国際関係学部教授（昭和62年～平成6年）
横浜市立大学国際文化学部教授（平成6～11年）
早稲田大学政治経済学部教授（平成11年～現在）

研究歴

中国現代政治史
現代中国政治
中国外交と東アジア国際関係

所属学術研究団体・役員歴

- (財)日本国際政治学会（平成8～10年 副理事長／現在 常務理事）
- (財)アジア政経学会（平成7年～現在 常務理事）
- 現代中国学会
- 日本学術会議会員・委員歴
政治学研究連絡委員会委員（第15期、17期）

第4部



米沢 富美子

(よねざわ ふみこ)

専門：物理学
関連研究連絡委員会：
物理学

勤務先・職名・称号等

慶應義塾大学理工学部教授

最終学歴

昭和41年3月 京都大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程修了

学位：理学博士

職歴

日本学術振興会特別研究員（昭和41年）、京都大学基礎

物理学研究所助手（昭和41～45年）、東京工業大学理学部助手（昭和45～47年）、ニューヨーク・ヤンパ大学客員研究員（昭和47～49年）、ニューヨーク市立大学客員研究員（昭和49～50年）、東京工業大学理学部助手（昭和50～51年）、京都大学基礎物理学研究所助教授（昭和51～56年）、慶應義塾大学理工学部助教授・教授（昭和56年～現在）

研究歴

ランダム系における電子状態の理論的研究
アモルファス半導体の基礎理論の研究
複雑液体の研究

所属学術研究団体・役員歴

- 日本物理学会（平成8～9年 会長）
- 液体およびアモルファス国際会議（昭和47年～現在 常任理事）
- アメリカ物理学会（平成8～9年 理事）

第6部



丹羽 雅子

(にわ まさこ)

専門：家政学
関連研究連絡委員会：
家政学

勤務先・職名・称号等

奈良女子大学学長

最終学歴

昭和32年3月 奈良女子大学大学院家政学専攻科修了

学位：工学博士

職歴

奈良女子大学家政学部助手・講師・助教授・教授・大学院人間文化研究科教授・生活環境学部教授（昭和36年～平成9年）、学長（平成9年～現在）
（中国）西北紡織工学院客員教授（昭和62年～現在）
放送大学客員教授（平成6～10年）

研究歴

被服の着心地を支配する布の力学的性質の理論的解析と布の風合いに関する研究
布の熱・水分移動特性が関わる被服の快適性能評価のための基礎的研究
被服構成・被服設計・アパレル工学への応用研究

所属学術研究団体・役員歴

- （社）日本家政学会（平成6～9年 副会長）
- （社）日本繊維製品消費科学会（平成3年～現在 理事）
- （社）日本繊維機械学会（昭和58～63年 評議員）
- 英国繊維学会（平成4年～現在 フェロー認定）
- （社）繊維学会（平成12年～現在 評議員）
- 日本熱物性学会（平成8～9年 会長）
- 日本農学会（平成6～8年 評議員）
- （財）関西文化学術研究都市推進機構（平成9年～現在 評議員）

日本学術会議会員・委員歴

熱工学研究連絡委員会委員（第16期）

審議会等委員歴

大学設置・学校法人審議会委員（平成9年～現在）